

親会社だったトミヤパレルの経営破綻から3年。独立して再出発した高級シャツメーカー、HITOYOSHI(熊本真人吉市、吉国武社長)の経営が軌道に乗りつつある。独立時に支援を受けた投資ファンドの資金支援は予定通り2011年末に終了。OEM(相手先ブランドによる生産)だけでなく、東京や熊本の本拠地で自社ブランド商品の販売も始めた。

高級シャツのHITOYOSHI

は1枚9975円と決して安くはないが、国内で生産した高い品質を考慮すれば割安で消費者に受け入れられている。

「企画段階で不要なものを取り除けば、従来の半額でできる」。吉国社長は値ごろ感のある商品作りを説明する。中間流通のアップル企業などを通さず、自社の企画・営業部門と人吉市の工場が直結した一貫体制が同社の強みだ。

同社はもともと大証2部

親会社破綻から3年



一貫体制強み 経営軌道に

上場の大手シャツ製造卸、トミヤパレルの生産子会社だったが、同社は09年に会社更生法の適用を申請。

人吉市の工場は閉鎖の危機に直面したため、同社で企画担当の取締役だった吉国O(経営陣が参加する買収)氏と工場長だった竹長一幸で独立し、生き残りを目指

高技術力を生かし高級シャツを生産する(熊本真人吉市)でもある。トミヤパレルの子会社時代は同社のシャツ販売総数1200万枚の中に埋もれていたが、「高級シャツに特化すればやっ」といけると思った(吉国社長)。

独立当初は従業員74人と、子会社時代の半分以下で再出発。「最初の1年は百貨店(熊本市、松本蒸治社長)でも自社ブランド商品(1枚5145円)の販売を始めた。

さらには将来は独自売り場の開設も目指している。「全体の2〜3割は自社の売場で販売したい。先々は海外にも出していきたい」と吉国社長は意気込む。再生から独り立ちへと踏み出したHITOYOSHIの真価がこれから問われる。

(熊本支局長 小玉祥司)

「話が持ち込まれた当初は国内で縫製ができるのかと思った」。HITOYOSHIに出資した事業再生ファンド「ボレロファンド」を運営するドーガン・インベストメンツ(福岡市)の森大介社長は振り返る。

HITOYOSHIの魅力はスーツの単純な生産受託だけでなく、企画段階から生産まで一貫して請け負うケースも増えてきた。年間生産数量は当初の18万枚から20万枚超にまで伸び、従業員も110人になった。今年はず

力は一貫して請け負うケースも増えてきた。年間生産数量は当初の18万枚から20万枚超にまで伸び、従業員も110人になった。今年はず